

秩父路魅力アッププロジェクト 紅葉の美しい渓谷に間伐材の薫る眺望空間をつくる - 大血川橋周辺の眺望空間整備



秩父路魅力アッププロジェクトとは

- 多様な主体によるパートナーシップ -

秩父地域の国道140号と299号を中心とした道は「日本風景街道」に登録されたルートです。この日本風景街道というのは、道を拠点にして地域の人々とそこを訪れる人々が交流・協働しながら、豊かな自然や地域文化を守り創造していく活動です。

秩父地域ではいくつかのNPOが中心となり、行政や観光団体、大学と共に秩父路魅力アッププロジェクトチームを結成しています。チームのメンバーはそれぞれが得意とするノウハウを活かし協力しながら活動を行っています。

紅葉の名所・金蔵落としと大血川橋周辺

- 紅葉の名所を楽しむために -

秩父市旧大滝村には旧荒川村との境界近くに金蔵落としという場所があります。ここは荒川上流の急峻なV字谷で、谷底を見下ろす風景は正に絶景ともいふべき場所です。この周辺は秋になると紅葉の美しい場所で夜にはライトアップもされ、多くの観光客の目を楽しませています。金蔵落としから少し上流に向かうと国道140号から、江戸時代の十三仏の石仏で有名な太陽寺、大血川深流観光釣場に向かう道が分岐しています。その道に入って荒川を橋で渡る付近が今回ご紹介する眺望空間のある場所です。この辺りは谷間に分け入っていくような雰囲気のある場所で渓谷と紅葉を鑑賞する穴場スポットでもあります。しかし急峻な地形のために車を駐車する余裕がなく、ゆっくりと眺望を楽しむところではありませんでした。

眺望空間の検討体制

- 学生・地元住民・NPOなどの混在チーム -

プロジェクトチームでは日本風景街道「秩父路ルネッサンス」調査事業により、この周辺に駐車スペースと観光客が車を降りて眺望を楽しめるスペースを検討し整備することになりました。きっかけはNPO森の関係者が現地周辺で利用されていなかった民地の活用を提案したことでした。地権者の了解を得た上で、NPO森が整備の実施主体となり、整備の方向性については、埼玉大学都市基盤工学研究室（深堀准教授の指導する大学院生4名）が提案する内容を踏まえて行政（埼玉県、秩父市）、NPO森、秩父広域森林組合、観光団体、地元関係者、その他プロジェクトチーム関係者でワーキンググループを結成し協議をして決定することになりました。



NPO森 吉田進 理事

ワーキングの検討では参加者の熱い思いが伝わってきました。道路工事との関係で苦労しましたが、荒川源流ログ技士会の協力もあり立派なものできました。現地の状況がこれほど変わるとは思いませんでした。引き続き提案内容を段階的に実現していきたいと思います。

検討の経緯

- 全体から細部への段階的検討 -

眺望空間の検討は平成19年12月から始まり、翌年2月まで3回の検討会が行われました。検討は3ステップにて段階的に進められ、それぞれの目標に沿って検討が実施されました。

ステップ1 秩父路山間地域の魅力アップにつながる
景観づくりの方針

ステップ2 大滝・金蔵落としエリアの景観的課題と
整備のあり方の検討

ステップ3 大血川橋周辺の眺望空間づくりの提案

このように整備の行われる現場だけを考えるのではなく、秩父路全体の地域の特徴を十分把握した上で、検討が実施されました。

眺望空間をどのように整備するか

- デザイン提案のコンセプト -

ステップ3の眺望空間のデザイン検討では、駐車スペースを含む6通りの敷地配置、周囲の景観間伐、柵、車止め、ウッドチップの敷き詰め、眺望東屋などが提案され、関係者が議論を重ねました。この場所全体の主なコンセプトは以下のように整理されました。

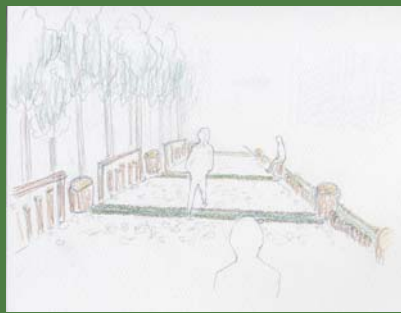
単に車を駐車するだけでなく、歩き回りながら、荒川のせせらぎや木々に囲まれる雰囲気を感じることでできる空間にする。

以前民家があったこの敷地の生活感を想起し、薪積みや間伐材の活用により、木々と共にあった地域の暮らしをイメージさせる

景観間伐を空間整備と一体的に行って木々に窓を開け新しい眺望を創り出す。また間伐材、東屋を利用したフレーム（額縁）効果により、眺望の価値を高める。

景観間伐

森林を健全に維持保全するためにスギやヒノキを間引くことを間伐といいますが、森林の景観を改善したり、日照を改善することも考える場合、景観間伐といっています。幹からの伐倒、枝打ち、下草の除伐などを行います。道路沿いにスギ林の多い秩父路ならではの風景整備のあり方といえるでしょう。



眺望空間のデザイン提案

- 敷地を機能別にデザイン -

具体的な整備の内容は、以下のように全体の敷地を5つに分けて提案されました。

眺望スペース

景観間伐で木々に窓を開け、ウッドデッキから金蔵落しの方向を眺める眺望スペース

駐車スペース

立ち寄りやすい駐車スペースで眺望空間全体の出発点となるスペース

情報発信スペース

案内表示を通じて、プロジェクトや周辺の紹介をするスペース

回遊・休息スペース

大血川橋や多目的・眺望スペースへと人をいざなう歩行スペース。木々に囲まれ、荒川のせせらぎを聞きつつ、ウッドチップを踏みしめながら歩ける空間。

多目的・眺望スペース

景観間伐で木々に窓を開け、東屋から荒川の上流方向を見渡す眺望スペース。中央の空間は小さなイベントを行うことのできる多目的スペース。

眺望空間の活用

- 散策を楽しむためのミニ拠点 -

今後多くの人々が訪れて秩父路の風景の素晴らしさを記憶にとめてもらえればと思っています。眺望空間は風景を楽しむことを目的に整備されていますので、駐車スペースは最小限の規模となっています。今後、周辺にウォーキングトレイルが整備されて周遊性が高まれば、他の駐車スペースと連携した利用ができると期待されます。また今後の秩父路魅力アッププロジェクトにおいても、この眺望空間を拠点として、周辺の自然・文化資源を巡りつつ散策を楽しめるウォーキングルートを開発したり、地域の人々と訪問者が交流するイベントを企画することができると良いでしょう。



駐車スペースの様子



間伐で窓を開けた眺望スペース

空間整備・景観間伐の実施

- 自然素材で風景に溶け込ませる -

3回のワーキングの検討結果を踏まえ、平成20年2月下旬から施工が始まりました。NPO森の吉田理事が中心となって、提案内容を実現可能な形に調整しつつ実施しました。景観間伐は秩父広域森林組合の協力により実施され、2箇所の眺望スペース付近で集中的にスギを伐倒するとともに、回遊・休憩スペース周辺では、木を切りすぎないように慎重に配慮した上、間引き作業が実施されました。

眺望空間の整備においては、荒川源流ログ技士会の協力を得て、荒川上流方向に目を向けた東屋が設置されました。少し離れた駐車スペースからも人目を惹き、訪問者を眺望スペースまで誘導しています。これまで見過ごされていたよい眺望に気づかせてくれる存在です。

また眺望空間の一部で提案されていた薪積み柵は、丸太を自然な風合いで積み上げることで実現し、眺望空間で統一されて使われています。丸太の切り口がランダムに並んでいる様子は空間にユニークな縁取りと表情を与え、木材と共にある暮らしのイメージを醸し出しています。

また眺望空間の地表面には全面的にウッドチップが敷き詰められました。ウッドチップの風合いは丸太の柵ともよく合っています。柔らかく心地よい感触が歩く楽しみを増しています。



埼玉大学大学院2年 渡辺美紀さん

今回、間伐する木を選ぶところから、杭や東屋のデザインに至るまで、自由に提案をさせて頂きました。ワークショップで参加者の皆さんから秩父の歴史や見所など、様々なことを教えて頂きながら、一生懸命頑張った半年間でした。一番驚いたのは、間伐の効果です。間伐した場所は、同じ場所とは思えないほどに眺望が開け、明るくなりました。とても素敵な場所なので是非寄ってみてください。



現地へのアクセス

交通アクセス

- 花園から車で90分 -

電車でのアクセス

秩父鉄道三峰口駅 - (西武バス) 太陽寺入口バス停

車でアクセス

花園ICから国道140号を甲府方面へ1時間半程度。大血川ドライブイン脇の県営森林管理道大血川線を左折してすぐ。

なおこの眺望空間や駐車スペースは、地域の人々の御厚意により一般に開放されています。立ち入りや利用については自己責任においてお願いします。

問い合わせ

埼玉大学大学院理工学研究科・深堀清隆

Tel&Fax:048-858-9549

E-mail:fukahori@mail.saitama-u.ac.jp

秩父路魅力アッププロジェクトチーム事務局

埼玉県県土整備部県土づくり企画室

Tel:048-830-5363 Fax:048-830-4822

E-mail:a5360@pref.saitama.lg.jp